



PT・OT・ST のための

これで安心 コミュニケーション実践ガイド 第3版

山口 美和 著

B5・頁 304 2024 年 03 月 定価：3,300 円（本体 3,000 円＋税 10%）[ISBN978-4-260-05351-8]
医学書院刊

飯塚 照史 奈良学園大学

「コミュニケーションは経験によって洗練される」との認識は誤りではないだろう。確かに特別な指導を受けずとも長けた人はいらる。しかしだからといって養成教育に携わる者として、実習で指導を受けた学生に“経験を積んだらできるよ”というのでは状況は変わらない。さまざまな情報に簡単にアクセスできるようになった現代において、正しい情報を正しく伝えることは重要である。ましてや患者中心の医療（医療情報を共有し患者の“個”を尊重する医療）となった医療現場において、正しい情報を共有するためのコミュニケーションの重要性は非常に高いと言っても過言ではない。

コミュニケーションとは“相手を納得させる”といった会話術に限定されるものではなく、情報を適切に対人あるいは対社会に伝えるプロセスそのものを指す。例えば、「花見」と言えば桜の花の下で宴会をするイメージを持つであろう。しかし、日本を母国としない者は、単に花をじっと見ている姿を想像するかもしれない。つまり、会話は成立するが適切な情報は相手に伝わっておらず、これは前提としての共通理解が欠落していることが一因となっている。同様なことは医療現場でも起こっているものと想像される。脳や脊髄といった中枢神経の損傷に由来する麻痺は一定程度の改善を示すこともあるが、多くの場合は後遺症として残存する。これを背景として持ち合わせる医療者の「麻痺はよくなりますよ」という言葉を、患者は「完治する」ととらえるかもしれない。

以上を踏まえれば、正しい情報を共有し相互理解を目的としたコミュニケーションが成立するための条件を知識として有することは、実践力の向上に資すると言える。一例を示すならば、病的体験に“共感”を示す医師における患者満足度が高いというエビデンスは、コミュニケーションを洗練することにつながるのではないだろうか。すなわち、冒頭で述べたようにコミュニケーションは“経験を積んだらできるよ”ではなく、涵養すべき必須の知識と技術であることに疑いの余地はない。

本書を眺めれば、リハビリテーション関連職種で想定される場面におけるコミュニケーションの知識が網羅され、さらに演習を通して理解が深まるよう構成されている。著者の山口美和氏の信念として“自分も相手も大事にする”という「肯定的相互尊重」は本書の骨格であり、人間愛、倫理観、自律性を柱としてコミュニケーション能力があることを教えてくれる。これに基づいて『学内編』においては自身を理解し、円滑なコミュニケーションの前提となるエッセンスが示され、学生あるいは新人教育に有用な構成となっている。さらに『臨床編』では、マナーや医療面接あるいは疾患の特徴を踏まえたコミュニケーションについて解説されており、現場に身を置くビギナーからベテランにも必携の書となっている。今やコミュニケーションは医療現場にとって重要なキーワードであり、この洗練化は医療者にとって責務である。本書を手にとることで、その意識が強くなることは間違いない。